

目指す学校像	「明るい笑顔があふれる」「家庭、地域社会から信頼される」「安全で安心な環境で学べる」我が子を通わせたい学校をつくる
--------	---

重点目標	1 学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 2 学校を核とした持続可能なスクール・コミュニティ構築 3 生徒と教職員との豊かな人間関係に支えられた生徒指導・教育相談の充実 4 明るく活気のある学校を目指した教職員の育成と働き方改革の推進
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学 校 運 営 協 議 会 による 評 価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和5年1月18日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に肯定的な回答をした児童の割合は市の平均と同じくらいであるが、国語・算数ともに全国・市の平均には及ばない結果となっている。 ○日頃の学習の様子から、興味のあることに関しては、意欲的に取り組む児童が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果から、読解力や基礎学力の定着に課題が見られる。 ○意欲をもって学習に取り組めるように、学びの自律や探究化を図る授業構想の研究を深める。	学びの自律化に向けた情報機器の活用と授業改善 学ぶ楽しさを実感できる「神田小 STEAMS TIME」の創出	①研修主任・学力向上主任と授業の流れ・ICTの活用等を明記した「神田小の授業づくり」を作成する。 ②校内研修で、国語、算数を中心とした授業研究を行い、基礎学力の向上、ICTの効果的な活用方法等の研究授業を実施する。	①「神田小の授業づくり」をもとに、教員が自分の授業を見直し、ねらいを明確にしたり、見直しをもって学習に取組ませたりすることができたか。 ②国語、算数の研究授業を年に4回以上行い、研究協議会を実施し、研修を深められたか。	・「神田小の授業づくり」をもとに、教員が自分の授業を見直すことにより、若手教師を中心に授業力の向上につながった。 ・国語を2回、算数を2回計4回の授業研究会と全教員が参加しての研究協議会を実施し研修を深めることができた。	B B	・授業研究会は来年度も継続し、教師の授業力向上と資質向上に努める。 ・若手教員に指導・助言できる教員が少ないため、中堅教員の育成と相談しやすい人間関係を構築できるような助言していく。 ・児童の学習に対する意欲は少しずつ向上しているが、学力の向上には結びついていないため、今後も児童の実態を把握した授業改善に積極的に取り組む。	・学校評価の児童のアンケート結果を見ると、先生の授業はわかりやすいと答えている児童が高学年で98%もいることは、先生方の努力の成果である。今後は学力の向上にもつながるような研修等の充実を図ってほしい。 ・高学年のアンケート結果から、宿題以外の勉強を家でしているという割合が高学年でも54%しかいない。家庭学習の習慣化については、さらにPTAとの連携を考えていくべきである。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査で「友だちと協力するのは楽しいと思いますか。」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国・市の平均を大きく上回った。 ○学校評価の「施設・設備」に係る質問に対する肯定的な回答の割合は89%である。 (課題) ○学校評価では、学校が子どもの悩みやトラブルに適切に対応していると評価している保護者は76%となっており、早急な改善が必要である。 ○施設・設備の老朽化に伴う、雨漏りや壁面の修理等に早急な対応が必要である。	児童1人ひとりにとっての「Well Being」な学校づくり 施設管理の徹底による、安全で衛生的な学習環境の充実	①全教職員参加の「すこやか委員会」を月に1回実施し、児童一人ひとりに寄り添う組織的な対応を常にできるようにする。 ②学期ごとに実施するアンケートにおいて児童の実態把握や心のケアをできるようにする。	①学校評価に係る教職員アンケートの生徒指導・教育相談の項目で肯定的な割合が80%以上になったか。 ②学校評価に係る児童・保護者アンケートの生徒指導・教育相談の項目で肯定的な割合が80%以上になったか。	・学校評価に係る教職員アンケートの生徒指導・教育相談の項目で肯定的な割合が98%になった。 ・学校評価に係る保護者アンケートの生徒指導・教育相談の項目で、肯定的な割合が令和3年度より20%上がり、96%となった。	A B	・報告、連絡、相談、見届けの徹底とスピードが誠意であることを繰り返し助言してきたが、教員の意識の差がまだ見られるため、今後も事例研修等を取り入れながら教員の危機意識向上を図れるように努める。 ・施設の老朽化に伴い、修繕が必要な箇所も増えているため、計画的に修繕等を実施する。 ・ケガの多い学級等が決まっているため、落ち着いた学級経営ができるよう助言する。	・学校評価に係る保護者アンケートの生徒指導・教育相談の項目で、肯定的な割合が令和3年度より20%上がり、96%となった。
3	(現状) ○神田小学校学校運営協議会で目指す児童の姿について共有し、学びの自律化に向けた情報端末の活用、自ら課題を見付け、協働して解決していく児童を地域全体で育てていく。 (課題) ○目指す児童の姿を家庭・地域・企業等に広め、地域に住み、地域に集う全ての方々と共有できるようにする。児童に育てたい力について熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けて取り組む。	目指す児童の姿を地域全体で共有するためのHPの活用・教育活動公開 児童の自律につながるコミュニティスクールプランの策定	①月に1回以上学校HPの更新、学校だよりや安心メールによる保護者・地域への情報提供をする。 ②コロナ禍における学校行事等について、オンラインで参観できるようにし、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。	①月に1回以上学校HPを更新し、児童の様子や学校の出来事等を保護者や地域の方に迅速に情報提供することができたか。 ②学校評価において、開かれた学校づくりに関する項目で肯定的な割合が80%以上になったか。	・月に1回以上学校HPを更新し、児童の様子や学校の出来事等を保護者や地域の方に迅速に情報提供することができた。 ・学校評価において、開かれた学校づくりに関する項目で肯定的な割合が令和3年度より12%上がり、94%になった。	B B	・学校HPや安心メール等を効果的に活用し、児童の様子や学校での出来事等を迅速に情報共有できるように努める。 ・PTAと連携し、紙面を使わずに保護者と情報共有ができるような新たなシステムを導入する。 ・具体的な方策を定め、学校とSSN、地域の企業等が協働した取組を始めることができなかったため、来年度の課題とする。	・修学旅行や南郷自然の教室から送られる学校安心メールに感激した保護者が多い。子どもの様子をより積極的に地域や保護者に伝えていく手段等を考えていく必要がある。 ・見守り活動等を支えている方は、高齢の方が増えている。保護者や地域の方との連携や協力体制の継続のためには、人材を見つけ育てていくことが必要である。地域やPTAとの連携をさらに工夫していくことが大切である。
4	(現状) ○新たな学びのスタイルとなるICTを活用した授業展開等についてエバンジェリストが中心となり研修を重ねている。 (課題) ○教職員の生徒指導や保護者対応に対する迅速かつ正確な情報共有と組織的な対応力の育成を図る。 ○児童一人ひとりに寄り添い、適切なタイミングで組織的に支援していく体制づくりが必要である。	教職員1人ひとりが自分のもつ力を発揮し、すべては神田の子の希望をはぐくむために努力できる組織づくり	①キャリアステージに応じた教材研究・業務改善について助言するため、教務主任・学力向上主任を中心とした組織で、ICTを活用した授業方法の研究や授業相談会を実施する。 ②子どもの悩みやトラブル等に基づき、迅速に適切に対応できる教職員を育成できるように、生徒指導研修を積極的に行う。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常の授業でICTを活用する状況になったか。 ②全ての教員が、生徒指導研修に参加し、子どもの悩みやトラブルに基づき、迅速に適切に対応する方法等を研修会で学ぶことができたか。 ③教職員アンケートで、授業改善への取組についての肯定的な回答が85%以上になったか。	・全教員が日常の授業でICTを活用し、主体的、対話的で深い学びとなる授業形態の工夫に取り組んでいる。 ・全教員が、すこやか委員会等での事例研修や教育相談研修に意欲的に取り組み、子どもの悩みやトラブルに基づき、迅速かつ適切に対応する方法等を学んだ。 ・教職員アンケートで、授業改善への取組についての肯定的な回答が90%となり、意識の向上が図られた。	B	・教職員の生徒指導や保護者対応における迅速かつ正確な情報共有と組織的な対応力の育成を図ってきたが、まだ温度差があり十分な対応ができていないとは言えないため、今後も継続して指導、助言をする。 ・ICTを活用した授業展開等についてエバンジェリストが中心となり研修を重ねているが、教員による温度差が生じているため、今後の課題とする。	・1人1台端末を活用し、授業を展開していることは素晴らしいことであるが、修理に出すと返ってこないという現状が心配である。代替品の貸与等教育委員会との連携を図ってほしい。 ・すこやか委員会において、全教職員が子どもの情報を共有することや、生徒指導研修などを行うことは大切であるので、今後も継続してほしい。

